

選考委員長講評

梅光学院学院長・梅光学院大学学長 樋口 紀子

「女性いきいき大賞」は今回で12回目を迎え、これまで449もの団体が応募して下さっています。

今回は新規の応募団体の割合が8割とこれまでに比べ高い比率でした。また、活動規模のかなり大きい団体と小さくても限られた予算で自分たちにできることをコツコツ頑張っておられる団体、活動期間が比較的短い団体と長年継続している団体と様々でした。活動内容もこれまでになかったユニークなものも多く、甲乙つけ難く、非常に難しい選考でした。今回応募下さった団体は33団体で、1次選考では各分野を念頭におきながら13団体に絞り、2次選考で優秀賞4団体を選びました。活動の独自性、巻き込み力、地域のニーズ、今後の可能性、継続年数、メンバー数等を確認し、優秀賞を決定。優秀賞から最優秀賞を決定したのは例年通りです。奨励賞は地道に活動を続けてこられた団体に対して、今後も頑張してほしいとエールを送る気持ちを込めて、3つの団体に差し上げることにしました。また、学生の部で応募された「山口短期大学・ボランティアサークルやまびこ会」は2回目の受賞です。限られた2年間の学生生活の中で、地域に根付いて地域からも期待されながら3年間も活動しているのは、一般の団体と比べても大変素晴らしい活動と評価し、一般の部地域づくり分野での奨励賞としました。学生の部での受賞団体は「山口県立大学手話サークル☆幸せの星」としました。初めての受賞となります。



最優秀賞、優秀賞団体の授賞理由は以下の通りです。

○しものせき国際交流ねっと（最優秀賞・山口県知事賞）：くらしづくり分野

グローバル化が進む中、行政では気づかないような創意・工夫や気配りのある幅広い活動が評価されました。例えば、地域住民と外国人との間をつなぐイベント展開、交流の場づくり、地域住民を対象とした国際理解教育活動、在留外国人への生活支援活動等、多岐にわたる活動は、一つの団体がしているとは思えないようなものです。下関市の国際化に寄与している団体であるという、選考委員全員の一致した意見でした。

○グリーンサポートやまぐち（優秀賞・朝日新聞社賞）：地域づくり分野

事故や犯罪の被害者、家族の支援だけではなく、病気やいじめ、自殺等の被害者にまで支援対象の幅を広げており、悲しみを抱えている家族に寄り添った活動であることが評価されました。また、電話相談にも応じ、家族を失った方たちにとっての社会の安全装置となるべく、最初の窓口となっている活動も素晴らしく、加えて、他団体との連携やファシリテーターの育成など将来に向けての活動の広がりが期待される団体です。

○特定非営利活動法人チャイルドハウスひなたぼっこ（優秀賞・yab山口朝日放送賞）：子育て分野

活動歴は3年と短いですが、逆に3年間でよくここまで活動をやってこられたと思います。特に障がい児や不登校の子どもがいる保護者は、ともすれば孤立しがちですが、こうした人たちに寄り添い、当事者の立場に立ってサポートしていく活動意義は大きいということで評価されました。利用が増えている現状から需要は確実にあり、応援していきたい活動です。

○しょうがい児者憩いの家 青山庵（優秀賞・山口新聞社賞）：福祉分野

重度重複身障者を対象とした支援活動で28年間の活動実績があり、施設では受け入れができない子どもたちの受け入れ活動を始めた当初のご苦労はどれほどだったかと思われます。これまでの努力に対して「お疲れ様でした」という意味の賞でもありますし、今は当時の役目は終えたようですが、次世代のお母さんの憩いの場となっているので、つながり・継続性という点も評価しました。

最優秀賞（山口県知事賞）

しものせき国際交流ねっと

代表者 石井 由利子（くらしづくり分野／下関市）

活動の動機・目的

2010年、山口県国際交流協会分室が閉鎖となり、海外からの訪問者や滞在者との交流や、滞在・在住外国人への支援の拠点場所が失われた。そこで、市民自らが中心となり、外国人との出会いや交流を積極的に推進することで、お互いを認め合い安心して暮らせる地域社会づくりと国際社会への参画を目指す人材育成の為、立ち上げた。

異なる文化・習慣を持つ人々が相互理解し、出会いの場の創出と情報提供を行い、地球的視野を持つ市民を育成し、より一層の国際化を図ることを目的とする。

活動の内容

①市民による国際交流の推進

<バーベキューパーティー> 交流親睦会

留学生、技能実習生などが参加しやすいように、彼らの参加費を安めに設定し、若い人たちも満足できるような食材、ムスリムの方たちのために、ハラール認証を受けた鶏肉・牛肉も用意する。

<新年交流パーティー> 交流親睦会・日本文化紹介

基本的には料理持ち寄りで、各国の料理が味わえるようにしている。他に、たこ焼き作り、抹茶体験、和服の着付け体験、正月遊びの紹介も行う。

②国際理解教育の促進

<異文化理解講座> 小学生以下は保護者同伴

下関や周辺に在住する外国の方を講師に迎え、食文化を中心にその国への理解を深める講座。

2017年6月『マレーシア』ドリームシップ

2017年12月『イスラム食文化』（シリア料理）

2018年2月『ハンガリー』ドリームシップ

③在住外国人への支援

<相互勉強会>さまざまな形で活動に関わる知識や経験を積み、外国人支援につながる講座を開催。

7月：「世界と地域をつなぐ、井戸ばた会議」イスラム圏住民との円滑な交流の為の問題点等を話し合う。

8月：「興味しんしん♪ イスラムの世界」ワークショップ形式でイスラムの世界を探る基本理念などクイズを交えたワークショップ形式で実施。

④その他の活動として、「多文化な地域づくりにむけて」（在住外国人と市民による相互勉強会～こんなに違う日常のあれこれ～など）

⑤協力事業として、「名陵校区放課後こども教室」に留学生を派遣（月1回）等。

これからめざしたいこと

若い世代とのコラボ企画や参加しやすさを心がけ、会員層の若返りを図り活動の幅を広げていく。また、家族で来日している方の、特に母親へのサポート等、他のグループとも連携して進めていく。さらに、外国人が抱えている様々な問題を相談する相手や窓口がないので、日本のお母さんたちも交えながらの交流会（お茶会）を開催し、子育て問題についてもお互い助け合えるようになればいいと思っている。



優秀賞（朝日新聞社賞） グリーフサポートやまぐち

代表者 山根 和子（地域づくり分野／防府市）

活動の動機・目的

代表者が2000年に当時4歳の娘を飲酒運転事故により亡くし、当時は相談する処もなく、途方にくれ、自身が困った経験から相談等に関わり、2001年に自助グループを立ち上げた。さらに犯罪被害者センター退職を機に、『ピアサポートこはる』設立。事件事故だけでなく、病気・いじめ・自死等の子ども達の相談・生活支援が増えたので、2015年『グリーフサポートやまぐち』と名称変更。

大切な人・大切な何かを失った経験からくる様々な感情（グリーフ）を抱える大人や子どもが地域の中で孤立せずに集える安心・安全な「つどいの場」づくりと、人と人がつながり本来持っている力を取り戻せるよう応援すること、そして、安心・安全な社会をつくっていくことを目指す。

活動の内容

①相談事業

電話相談は9:00～18:00を設定しているが、随時受付し、代表者が対応している。面接相談は要予約とし、電話相談された方とは必ず面接している。

②サポート事業

メンバーには弁護士、心理カウンセラー、被害者遺族、ソーシャルワーカー、警察 OB、主婦、大学生など。萩、周南、防府、山口から集まる。

○子どものグリーフサポート 毎月第2日曜日13:00～15:30
対象は様々な理由で大切な人を失った幼児から高校生まで。山口市の空き家を借り、5～6名の人が集う。子ども一人に大人一人がついて共に時間を過ごす。

○大人のグリーフサポート 子どもと同日に開催。親は子どもと別の部屋で相談に応じる。人数が少なければ個別相談。5～6人の場合はみんなで近況報告や抱えている問題の共有、裁判内容の相談等。

○事件事故などの事象による当事者の生活・裁判支援等。

③広報啓発研修事業

○グリーフサポートファシリテーター養成講座（年2回）

○犯罪被害者支援活動員等の養成・研修

○講演会・シンポジウムの企画開催、講師派遣。昨年度は6回主催。

○他団体に協力。県立大学開催「生命のメッセージ展実行委員会」。

④講演

○2016年5月防府・小野中学校で「人とつながる」と題して講演。
「心がくだけたら、友達や先生、家族に必ず相談して。周りの人は、そばに寄り添うだけでもいいから」と語った。合わせて、教室では、事件や事故で命を奪われた被害者の等身大のパネルを展示する「生命のメッセージ展」も実施。

○他に、小・中・高13か所、県・市・法務省・更生施設・中国運輸管理局などの行政関係、福岡高裁・各県警察などの警察関係21か所と企業・山口県安全運転管理者講習・犯罪被害者支援センターなどの団体等23か所で講演。県教育委員会からの要請に応じ、「命の授業」を実施。

○「グリサポ通信」発行。（年2回）

これからめざしたいこと

○一人で悲しみなどを抱え込まず、ここにきたら『ホッ』として『ふっ』と笑える居場所空間をみんなで作りたいと思う。生きる力を取り戻せる場として。

○グリーフの視点を持って様々な機関・団体と見守っていける『支援づくり』が山口県で構築されることを思い描きながらスタッフと一歩ずつ歩んでいきたいと思っている。



グリーフサポート親と子のつどい二胡コンサート



生命のメッセージ展

優秀賞 (y a b 山口朝日放送賞)

特定非営利活動法人 チャイルドハウスひなたぼっこ

代表者 原田 幸子 (子育て分野/光市)

活動の動機・目的

児童指導員として「放課後児童クラブ」に在職中、障がい児・不登校児を持つ保護者から「相談する場所や子どもの居場所が少ない」、「子どもの預かりだけでなく母親（保護者）の心のケアができる場所が欲しい」などの声をよく耳にしていた。それがきっかけで障がい児・不登校児とその保護者が安心して何でも相談でき、子どもの自立支援、心のケアなど、ここに来るだけでホッと一息つけて、ご家族が笑顔で過ごせる居場所を作りたいと「子育てボランティア団体」を立ち上げた。

しかしながら、ボランティアとしてのサポートには限界があることから、平成28年に NPO 法人を設立、29年4月より放課後等デイ事業をスタートさせた。

子どもたちが持っている個性や能力を見つけ出しそれを活かしていけるよう、また自分自身と社会のために新しい価値を創造し、地域の中で共存していけるように支援していきたい。

アットホームな雰囲気でお母さんを笑顔にすることも大きな目的の一つとしている。

活動の内容

1 当事者サポート事業

①放課後の預かり（送迎含）13時～17時（時間外は日中一時）

第2, 4土曜日、長期休業中の預かり9時から17時

主な活動内容として学習支援及び音楽療法、ドッグセラピー、農業体験（さつま芋栽培）、クッキング、野外活動（お出かけイベント、アスレチックなど）、職業体験（マクドナルドのマックチャレンジ）等。



野外活動（船方農場）

②不登校児支援；保護者の相談や学校へ戻るための支援や自宅での学習支援

③市のファミリーサポートの委託で未就園児の預かり。

2 ペアレントサポート事業

①相談・支援（その子に合った自立支援等、保護者のケア）

②ひなカフェの開催（保護者同士の情報交換・交流等）

3 スタッフ研修

①コーチングや虐待防止、障がいの特性とその対応等の専門的な研修会を開催し、スキルアップを図っている。

②市内の高校福祉課の生徒の職場体験の依頼を受け入れたり、ボランティアに協力を仰いだりしながら、異性や異世代間交流ができることを心掛けている。

4 「ひなたぼっこ便り」の発行

行事や近況等の報告のため保護者向けの便りや地域や賛助会員向けの便りを発行。

5 地域行事への参加

地域住民の理解、協力を得るため、地域行事への参加を積極的に行っている。

光人形劇フェスティバルへ出店やガーデンマーケット、資源回収等を定期的に行っている。



クッキング（パスタ）

これからめざしたいこと

①子育ての悩みや相談が安心してできる場を提供し、母親の不安を軽減するお手伝いに取り組む。

②子どもたちの「可能性」を見つけ出し、子どもたちが「将来の夢（目標）」をもつことができるよう、少しでも夢や目標に近づくことができる発達支援・自立支援に取り組む。

③困りごとや悩みごとが生じて、みんなで一緒に話し合い、解決することができる場を提供する。

④住み慣れた地域で安心して、子どもたちが自分らしく生活することができるような「地域づくり」を目指していく。

⑤特に、今抱えている課題の不登校支援（行政への理解）に力を入れたい。

優秀賞（山口新聞社賞） しょうがい児者憩いの家 青山庵

代表者 池内 京子（福祉分野／下関市）

活動の動機・目的

代表者が以前、養護学校に勤務し、在宅訪問学級を担当していた。28年前の当時は、義務教育終了後の重度重複のしょうがいのある子どもさんと家族の居場所（受入れ施設）がなかったことからそのまま在宅になることが多かった。時に集まって楽しめる場を提供したいとの思いで発足。

重いしょうがいのある子どものいる家族が家の中に閉じこもらず、いろいろな人とふれ合う機会を作ることで、心に栄養をとれる場所であることをめざす。

活動の内容

退職時に同時期卒業した3人のしょうがいのある子から始め、代表者が車で送迎し、お風呂に入れて、食事を食べさせるということの繰り返しだった。徐々に賛同してくれた仲間が集まりボランティアの輪が広がった。子どもが自立するための第1歩として、合宿所として使ってもらったりしていたが、グループホームに行かれるようになったり、施設や幼稚園・保育園の受け入れが可能になったりと、当初の「子ども達の集える場」としての役割は現在は終わった。しかし、施設に入ったり通園している間のお母さんたちの「交流の場」「情報交換」そして「親子で一緒に楽しめる場」として継続して場を提供している。

①談話会（月1～2回）

お母さんたち同士の交流会。子育ての悩みや今後の進路のことや手作り品を作ったりと、自閉症の母親会であったり、ダウン症の子の母親会であったり、それぞれの会毎に集まり、其々で運営も行っている。スタッフは、それを見守り、アドバイスしたり、外出行事や一泊旅行等計画を立てる時の助言を行う。

②ランチ会（月1～2回）

お母さんたちだけでランチに行ったり映画を観る。息抜きをの場を設け、スタッフが託児。

③外出行事（年4回程度）および一泊旅行（年1回）

日帰りで行く行事や美術館へ。一泊旅行は、今年佐賀市に行く予定。

④出前コンサートを開催（年1回）

広島から民族音楽演奏家を招いて演奏してもらう。

⑤ガレージセール（月1回）

代表者宅のガレージで、遊休品や畑で採れた野菜などを販売（100円均一）。資金作りのため。

⑥茶道教室（週1回）開催。師範に習い、時には地域の子どもたちも交えた趣味の会として開催。

⑦地域の公民館的な場として提供

そうめん流し（夏場で10数回）を地域の老人会や子ども会も交えて開催。学校の百人一首大会のための練習や老人会のミニ門松づくりや囲碁・麻雀等の憩いの場として提供。

これからめざしたいこと

28年間続けている中で、当初はしょうがいをもつ子のお母さんたちは孤立したり、隠していたりしたが、今は余裕をもっていただけるようになったと思う。外に出る機会も増え、居場所が作れたと思う。いろいろな人たちが社会に生きているので、お互い認め合って仲良くでき、しょうがいのある人もない人も同等の人間関係をはぐくみ、お互いに支え合えるようになる場所づくりを変わらず目指していく。キャッチフレーズは『ここにすればみんな友だち』。



コープやまぐち奨励賞 高森チンドン隊

代表者 兼近 孝子（地域づくり分野／岩国市）

活動の動機・目的

周防三大神の一つとされる高森天満宮の秋季大祭である天神祭りは100年以上続いた伝統行事。同天満宮が天神祭りの廃止を検討していることが報じられ、天満宮の総代から「資金も人手もない。チンドン隊を呼ぶ金もない」と聞かされて、「地域がますますさびれる。自分たちが代わりにチンドンをやろうと」思い立った。存続の危機を迎え、町おこしと活性化を目的に、商工会女性部が中心となって10人で結成。全員が素人で、家にあった派手な服を取りだし、100円ショップで買った楽器と鍋のふたを打ち鳴らしながら地区を歩いた。「みつともない。きたない。品がない」と言われ、周囲の冷ややかな視線も意に介さず、その後、県外のチンドン隊の演技を勉強。古着や大漁旗を近所から集め、洋裁店主だったメンバーを中心に手直しし衣装を自作。翌年以降も出演し次第に賛同者が増えた。老人施設や地域のイベントにも出演して笑顔と元気を届けている。

活動の内容

①2009年から毎年高森天神祭りに参加。

最初は、CDを流して、鍋やフライパン、鍋の蓋を叩き、衣装も自前の派手な服を選んで練り歩いた。楽器を使い始めたのは翌年から。太鼓、三味線、サクソ、クラリネットを買って練習。その後、いらなくなった楽器やアコーディオンを譲ってもらい徐々に揃えた。

②結成後5年目から介護老人施設を慰問。同時期に鼻笛製作家の方と出会い、鼻笛を取り入れた。

③練習は毎週水曜日の夜に岩国西商工会で実施。

○チンドンの練り歩きだけでなく、ドジョウすくい（マイケルジャクソンの曲で）やスコップ三味線など、新旧様々なパフォーマンスを取り入れ、織り交ぜながら芸に磨きをかける。

○衣装はすべて手作りで遊休品やいただき物を加工した衣装を製作する。着物や鯉のぼり、帯、大漁旗、おいでませ山口の幟旗など素材のバリエーションは豊富で約100着。

○曲は、「美しき天然」「蒲田行進曲」「村祭り」「さんぼ」「それいけカープ」「いい湯だな」等。楽譜も自分用に作り直す。

④「とおoryんせご縁市」（ご縁市実行委員会主催/11月）を高森天満宮の秋季大祭に合わせて境内で開催。参拝客を呼び込む。今回初めて参加者を公募し、衣装を着て皆で練り歩きを実施。

⑤とことん祭り、岩国市プロモーションビデオ撮影、食肉フェア、日米協会主催交流会（岩国基地）、錦帯橋まつり、阿知須ふれあいまつり、みね桜まつり、岩国敬老会、収穫祭舞台出演等多数。

⑥2014年 全国チンドンコンクール出場（富山県へ山口県勢初）、第1回チンドングランプリ in 俵山温泉（長門市）グランプリ受賞。2017年 ハワイホノルルフェスティバル出場。

⑦その他の活動として、2014年東日本大震災の被災者支援ボランティア活動として20人で、福島県会津若松市の仮設住宅を慰問。演技し、衣装も着てもらって皆で笑い転げた。メンバーの中の理容師&美容師がカットサービス。ネックウォーマー&エコたわしをプレゼント。

これからめざしたいこと

2年後の5月、ドイツのフェスティバルに参加予定。全員元気で、高森の元気を皆様に届けるべく、これからも日々活動していきたい。



高森天神祭り



しゅうとう食肉フェア

コープやまぐち奨励賞 下松エンラジスターの会

代表者 山本 典子 (福祉分野/下松市)

活動の動機・目的

総合支援学校を含む小・中学校に在籍する弱視の生徒のために、拡大教科書を作成・提供する県内で最初に組織された「あいさぼ」に所属。現在は独立して活動している。

「障がいがあっても読書する楽しみ、学習するよろこびを！」を目的とする。

活動内容

①拡大教科書製作 (市販本で適応できない子どもたちへ、オーダーメイドの拡大教科書)

障がいは子どもによって状況が様々異なるので、学校の担任の先生と何度も打ち合わせをし、一人ひとりに合った「オーダーメイドの拡大教科書」を手作りで作り続けている。これまでに、県内の弱視の小学生6名、中学生1名、計7名の拡大教科書を複数年次に渡って、延べ数十冊製作し、今年度は来年度小学4年生のための算数教科書を製作中。

※これまでに、算数、音楽、生活、図工、理科、家庭科、保健体育、国語などの教科を製作した。

製作手順は

- i 原本教科書のデジタルデータから画像を抽出。画像編集ソフトを使って必要な処理を加える。色や線の太さ等について見えやすく加工することもある。
- ii 文字については、その子に適した書体・大きさを選択し、字間・行間に配慮しつつ文書スタイルを決め入力。拡大した図や文字をレイアウトし、複数冊に分冊し編集。
- iii 途中、担任の先生や本人と話し合いながら、調整、確認。
- iv レーザープリンタで印刷、製本機を使って製本。

②「テキスト DAISY」図書の製作

身体障がいや学習障がいなどのため活字本を読むことが困難な人のために、PCを使って本を読み上げる「DAISY 図書」が利用されている。私たちは、活字本からテキスト (文字情報) や画像を抽出し、DAISY 規格で編集するという作業を行って「テキスト DAISY」図書を製作している。

これまでに、県外の NPO 法人や下関盲人図書館を通して、視覚障がい者向けの Web 上の図書館「サピエ図書館」に収める作品を90タイトル以上提供してきた。

③受験のための参考書やその他社会人のための専門書のテキスト化等の学習支援

○視覚障がいの人たちは、学習のための教材等にも不自由している。参考書や専門書をテキスト化 (文字情報のデジタル化) することによって学習や研究のサポートをした。

○普通学校に通う学習障がいの生徒のために、問題集や解説集等の漢字に一文字一文字ルビを振る (画像ソフト使用)、長文の問題を「マルチメディア DAISY」化するなど、必要に応じた学習支援を行った。

これからめざしたいこと

これからは、若い人たちにもどんどん参加してもらえるよう、広く活動を知っていただければと思う。少しの配慮があれば、障がいがあってもなくても同じように読書の楽しみや学習の成果を得ることができる。従来からある点訳や音訳に加え、デジタル技術など新しいスキルを活用して、サポートを続けていきたい。



PCとレーザープリンタを前に
印刷作業



拡大教科書と原本の教科書の比較

コープやまぐち奨励賞

ボランティアサークルやまびこ会

代表者 高野 沙奈子(地域づくり分野/山口短期大学)

活動の動機・目的

山口短期大学を拠点として活動するボランティアサークル。当時の教員がボランティア活動に精通していて、学生も一緒にということで立ち上げた。32年間の活動実績がある。

やまびこ会という名称は、地域からの声に対して反応する団体という由来を持ち、地域社会への貢献を第一としている。ボランティア活動を通じて地域に役立ち、地域とともに学生の発想と企画力を生かし、連帯感を深め学生生活の向上を図ることを目的としている。

活動の内容

①「家庭の日イベント」の企画・運営(チーム名称:ちやすむんき〜)。

防府市観光振興課より要請を受け、平成24年度から山口県が制定した「家庭の日」(毎月第3日曜日)に合わせて開催。親子で楽しんでもらうことを目的に、実施する季節に合わせた内容を企画する。

多い時は1日で200名を超える親子連れが参加し、にぎわっている。

2017年度の活動

5月 やまたんシアター(自作のペープサートや紙芝居、大型絵本など)、似顔絵作成、紙飛行機作成

6月 やまたんシアター、こま回し、竹馬ぬり絵

7月 やまたんシアター、さかなつり、お面

11月 やまたんシアター、ストラックアウト、輪投げ、野菜スタンプ



※部員が一丸となり、授業の合間の短い時間を利用して効率的に話し合い、当日の準備を進めている。

②防犯活動(チーム名称:防犯ボランティアやまびこ会)

山口県内の大学生ボランティア活動団体として、日ごろの学生生活でお世話になっている大道や防府の安全安心のお手伝いができるよう取り組みを続けている。

通年 少年の立ち直り・健全育成のための大学生ボランティア登録、サイバーボランティア登録

7月 自転車の施錠点検および広報活動

9月 コミュニケーションボード活用研修会ボランティア

12月 防府地区少年相談指導員連絡会

③社会福祉施設、地域まつり等の行事手伝い

4月 山口ダウン症親の会 託児

5月 国立山口徳地青少年自然の家教育事業 自然体験

8月 夏祭りボランティア 社会福祉法人ひかり苑 等多くの場所で活動継続中

これからめざしたいこと

歴史があるサークル活動なので、OBやOGとの関係を大切にしつつ、お手伝いではなく、各々が積極的に自主的にかかわることで、最初に会ができた時の思いや意思を持って、先輩たちの築き上げた伝統を継承していきたい。

また、防府市内だけでなく他地域にも出かけていくことで、自分たちの活動を知ってもらい広げていきたい。他の学校や団体とも積極的に交流して、各々のスキルアップにつなげたい。

コープやまぐち奨励賞・学生の部

山口県立大学手話サークル☆幸せの星

代表者 岡本 茉耶（地域づくり分野／山口県立大学）

活動の動機・目的

手話の技術を高めていくことはもちろん、学習や実際のろう者との交流を通して、相手の文化を受け入れていくことができたらい、活動している。また、代々受け継がれてきた地域の方々とのつながりを次の代にも伝えていくことで、地域の方々にも手話を通じた様々な人との交流のきっかけになればと思っている。

活動の内容

手話歌とは、自分たちで選んだ J-POP などの音楽に、歌の意味などを考え、手話をつけてひとつの世界観を表現するパフォーマンス。社会福祉学部を主に、他の学部からも集まる。今まで手話を学んだ経験のないメンバーがほとんどだが、先輩から習ったり、皆と協力しながら磨いている。

①定例会（第1第3月曜日 18:00～と毎週水曜日の 18:00～ 定例で学習）

単語学習やボイスカットでのコミュニケーションを通じて手話の学習を進めている。回ごとに担当者（3～4名）が中心となってテーマを基に進める。知り合いの方（地域のろう者）がほぼ毎回参加され、手話のチェックやアドバイスをしてくださる。

進め方例～12月の定例会のテーマは『お正月』～

- 1、グループ分け
- 2、自己紹介（名前・あだ名・今年を表す手話とその理由）
- 3、お正月に関する単語を覚えよう♪
- 4、文章読み取りかるたゲーム 等。

②手話歌による地域のイベントへの参加（要請を受けて参加）

- 2017年3月 東日本復興支援イベント「菜香亭福ふく寄席～笑う門に花は咲く～」に参加。東日本大震災復興支援ソング「花は咲く（サビ）」等の手話歌披露（菜香亭）。
- 他に、性乾院（お寺でライブ/6月）、着物喫茶（宮野駅/7月）、納涼祭（湯田温泉/8月）もりさま祭（道場門前商店街/8月）、結人祭（山口中央商店街/9月）、情報センター祭り（山口県聴覚障害者情報センター/10月）に参加。

③地域サロンにおける高齢者を対象とした手話教室（月2回）

にこにこサロン八坂の家（多世代交流の場）より依頼を受け、認知症予防の交流企画として実施。高齢者の方たちも覚えやすく、楽しめる手話を考えて手話歌を伝える。※童謡「キラキラ星」「ふるさと」等。

④子どもを対象とした出張講義

- 7月 子ども教室 平川地域交流センターで手話歌を教える。
- 9月 デイキャンプボランティア 山口南総合支援学校でプールで遊んだり手話歌をしたり。 他。

⑤大学祭での手話歌発表（6月 水無月祭 11月 華月祭）

これまでに自分たちの代で作った曲は10～15曲。

（Mr.Children／「GiFT」、ありがとう／ファンキーモンキーベイビーズ、栄光の架橋／ゆず、Happiness／嵐）等。



定例会



大学祭

これからめざしたいこと

一人一人の手話の技術の向上やさらに手話に対する理解を深めるという点で、地域のろう者との実際の交流の機会や手話を学んでいる方々とのつながりを増やしていきたい。さらに活動していきたい。手話という一つの言語・文化を通して、様々な人がつながるきっかけの一つになればと考えている。

